



関千鶴子議員

災害ボランティア・コーデネーターの養成の状況は

町長 今後、各関係機関と連携しすすめていくべき課題

■緊急連絡網の整備

【関】 この度の東日本大震災時に、小中学校ではどのような対応をされたのかを伺います。

【教育長】 日頃の訓練どおりに安全に避難できたとらえています。また、停電で交通手段がなくなつたということがあり、各PTA総会で緊急連絡網整備の説明を行い、作成しているところです。

■放射能汚染に対応

【関】 放射能汚染で、空气中の放射線量が基準を超えた場合の退避、下校の方法などへの今後の対応を伺います。

【教育長】 非常に大きな課題です。県・町の防災計画と

の整合性をとりながら、対応策を講じていきたいと思えます。

■すすめていくべき課題

【関】 町の地域防災計画には、「ボランティアの受け入れ体制を整え、活動を支援し育成に努める。災害時には※1一般ボランティア活動希望者と求める分野をつなぐ『災害ボランティア・コーデネーター』の養成を促進する。」とあります。

【町長】 一般ボランティアの受け入れは、総務課、健康福祉課が窓口となり対応することになっていきます。養成に関しては、今後は社会福祉協議会や関係機関県などと連携をとりながら

すすめていくべき課題と考えています。

■情報を共有

【関】 災害時の※2要援護者リスト登録制度の概要を伺います。

【町長】 昨年度から名簿作成

に着手し、現在はデータベース化するすすめ、民生委員が本人承諾の手続きをしているところです。個人情報保護が若干足かせになっていることもありす。

要援護者リストに関しては、社会福祉協議会、健康

福祉課、防災関係機関（各地区の自主防災組織含む）での情報を共有する関係機関共有方式を導入したいと思えます。

■ホース更新時に補助を

【関】 消火栓とともに設置しているホースの更新時に町が補助してはどうですか

【総務課長】 消防団のホース更新時に融通している状況もあります。自主防災組織の立ち上げ時の危機管理という点からも、状況をふまえ検討します。



被災者の方と一緒に食事づくり  
(宝前町コミュニティセンター)

※1 被災者の生活支援を目的に、専門知識・技術などを必要としない活動  
※2 乳幼児（0～1歳）寝たきり者・一人暮らし（65歳～）心身障がい者、児、外国人